

令和4(2022)年度 病害虫発生予報 第11号

令和5(2023)年2月17日
栃木県農業環境指導センター

病害は予防、虫害は初期防除を基本とした管理を行いましょう。

予想期間 2月下旬～3月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比36%：ほ場率、平年比0%：株率)。(一～±)
・向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多い見込み。(一)
- (3) 対 策 ・多湿条件において発生しやすいため、下葉(老化葉等)を除去し株元や花房の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・発病した葉や果実、果梗等は伝染源となるため、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・予防を主体に、セイビアーフロアブル20(RACコード F:12)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・[灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は多い(平年比194%：ほ場率、平年比500%：株率)。(+)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は多い見込み。(一)
- (3) 対 策 ・多湿条件において発生しやすいため、下葉(老化葉等)を除去し株元や花房の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・発生初期のうちに、パンチョ TF 顆粒水和剤(F:U06、F:3)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
・曇雨天時にはくん煙剤を使用する。硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比63%：ほ場率、平年比75%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は多い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・葉裏をよく観察し、増殖する前に初期防除を行う。
・天敵導入ほ場では、ハダニ類の発生状況をよく観察し、必要に応じて追加放飼を検討する。
・化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・葉かき後は薬剤がかかりやすいため、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比77%：ほ場率、平年比125%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は多い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・低密度のうちにベネビア OD(I:28)等を散布する。
・花を良く観察して、観察した花の1割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、被害が大きくなる可能性があるため、速やかにスピノエース顆粒水和剤(I:5)等を散布する。
・なお、本剤はカブリダニ等の天敵に影響があるため注意する。
- (4) 備 考 ・[防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比36%：ほ場率、平年比15%：株率)。(一～±)
・向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多い見込み。(一)
- (3) 対 策 ・多湿条件で多発するので、適正なかん水と換気を行う。多湿時は循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度を下げる。
・発病した葉や果実、花卉等は伝染源となるため、速やかに取り除き施設外で処分する。
・発生状況に応じてピクシオ DF(F:17)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 抛 ・現在の発生量は多い（年平均 233%：ほ場率、年平均 983%：株率）。（+）
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は多い見込み。（-）
- (3) 対 策 ・過繁茂にならないよう葉かきをこまめに行い、通風と日当たりを改善する。
・予防を主体に、サンヨール(F:M01)等を葉裏にもよくかかるように散布する。

7 きく 白さび病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 抛 ・現在の発生量はやや多い（年平均 182%：ほ場率、年平均 133%：株率）。（+）
・向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多い見込み。（-）
- (3) 対 策 ・多湿条件で多発するので、適正なかん水と換気を行う。多湿時は循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度を下げる。
・予防を主体にジマンダイセンプロアブル(F:M03)等を散布する。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	やや多	多	トマト	コナジラミ類	やや多	多
きゅうり	うどんこ病	やや多	平年並	にら	白斑葉枯病	平年並	やや少
	べと病	やや多	平年並	きく	ハダニ類	やや少	平年並
	コナジラミ類	多	多				

○ かんしょ サツマイモ基腐病

本病は栃木県での発生は確認されていませんが、令和5(2023)年2月現在、全国30都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。

健全な種苗の導入及び発病株の早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。

[サツマイモ基腐病に注意を!](#)を当センターHPに掲載中です。

○ 水稻の種子伝染性病害の対策について

種子消毒を適切に行い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材・器具もしっかり消毒することで、苗立枯病や種子伝染性病害の発生を防止しましょう。

近年、特に育苗期間中の高温が原因と思われる病害（もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など）の発生が多くなっていますので、育苗ハウスなどの適正な温湿度管理にも留意しましょう。

○ 冬期のスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策について

足利市・小山市・野木町の排水路等でスクミリンゴガイの生息が確認されています。スクミリンゴガイが見られている地域では、水稻作へ向けて越冬密度を下げる以下の対策を行いましょう。

- ・耕うんを行い物理的に破壊するとともに寒風にさらす
- ・水路の泥上げにより、越冬場所をなくし越冬個体を減らす

[スクミリンゴガイに注意しましょう](#)を当センターHPに掲載中。

農薬は適正に使用しましょう

- 農薬は、容器のラベルをよく読んで適正に使用し、農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 薬剤防除では、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報（予報期間2月18日から3月17日 2月16日気象庁発表）

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温は、高い確率50%です。降水量は、少ない確率40%です。日照時間は、多い確率40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20%	30%	50%
降水量	40%	30%	30%
日照時間	30%	30%	40%

詳しくは農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。

